

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在達成状況		
<p>■「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換</p> <p>いち早い経済不況からの脱却を目指し、業界・企業の高度化、新分野への進出および起業家の創業を支援します。また、企業の経営者や企画担当者を対象とした各種セミナーの開催を通して、デザイン力・マーケティング力の向上に努めることで「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換を図り、活気あるものづくりのまち鯖江を目指します。</p>	<p>新製品・新技術開発事業および新事業創出・業種転換事業について、当初11件の申請が出されましたが、うち2件が辞退したため、追加募集を行いました。</p> <p>また、めがねのまち元気再生事業を主体に推進しています。セミナー開催については、7月18日に佐藤卓氏を招いたデザインセミナーを開催しました。</p>	<p>◆新製品・新技術開発事業および新事業創出・業種転換事業実績件数</p> <p>◆デザイン力・マーケティング力向上のためのセミナー等の開催</p> <p>◆企業訪問活動 (景況把握、支援制度啓発、設備投資情報収集、要望聴取)</p> <p>◆企業等への支援制度の情報発信(広報)</p>	<p>10件</p> <p>10回 100人</p> <p>140社</p> <p>3回</p>	<p>9件</p> <p>1回 117人</p> <p>120社</p> <p>3回</p>	<p>◆9月7日まで追加募集を行った結果、3件の申請が出されました。今後、審査員による審査を行う予定です。</p> <p>◆デザイン力等向上のためのセミナーについては、今後、福井工業大学と連携して実施する予定です。</p>	<p>9月21日に元気再生協議会を開催、今後、事業実施予定</p>
<p>■鯖江ブランドの情報発信</p> <p>鯖江市の地場産業に関する企業・製品・産業観光等の各種情報を、ホームページなどの媒体や展示会、イベント等の機会をとおして鯖江ブランドとして全国的に情報発信します。また、地域の宝である地場産業をはじめ自然や歴史・伝統・文化なども鯖江ブランド(観光資源)として捉え、情報発信と誘客に努めます。</p>	<p>ITによる情報発信については、メガネファクトリーのリニューアルを行うとともに、facebookを始めたことにより、情報発信の回数が増加しました。</p> <p>展示会については、横浜で行われた横浜恐竜展(やまぎわ天下一街道主催)や国会議員会館での眼鏡展示会でPRを実施しました。また、体験については、つつじまつり、吹奏楽イベント、北信越インターハイにおいて、各種体験コーナーを設けました。</p>	<p>◆ホームページによる情報発信</p> <p>◆展示会等を活用した情報発信</p> <p>◆イベントを活用した情報発信・体験機会の提供</p> <p>◆眼鏡・繊維・漆器の企業体験実習、講座の実施(丹南高校での授業)</p> <p>◆観光客入込数</p>	<p>36回</p> <p>2回</p> <p>2回</p> <p>2回</p> <p>140万人</p>	<p>70回</p> <p>2回</p> <p>3回</p> <p>未実施</p> <p>未集計</p>	<p>◆丹南高校での授業については、10月中旬に、企業訪問による実習とデザインの専門家による講義を予定しています。</p> <p>◆H25.1月集計</p>	<p>8月1日「めがねのまちさばえ」facebookを開始 8月8日 めがねファクトリーをリニューアル</p>
<p>■鯖江街なか賑わいプランと学生連携事業の推進</p> <p>①商店街の活性化や観光の振興など、中心市街地の活性化に向けて、商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して「鯖江街なか賑わいプラン」事業を推進することで、個性と特徴のあるまちづくりに努めます。</p> <p>②「らてんぼ」を拠点とし、若者の感性やニーズなどを活用して、商店街の活性化やものづくりの活動に積極的に取り組めるよう支援します。併せて、学生、商店街、市民などとの交流の場として様々な活用が図られるようPRに努めます。</p>	<p>①平成24年度は、街なか賑わいプランの最終年度であるので、実施事業の効果等も踏まえ、さばえ夢かたち推進委員会が主体となり、商店街や学生、地域住民、行政と連携して各種事業に取り組んでいます。</p> <p>②学生OBを配置し、「らてんぼ」の活用促進に努めています。学生団体Withなど学生が情報収集の場として商店街や市民との交流を図り、毎月のご縁市への「らてんぼ」としての出店や、主催事業として8月にアニメ上映会を4回開催しました。</p>	<p>①◆賑わいプラン41事業の実施率</p> <p>◆賑わいプランの数値目標設定33事業について、達成率</p> <p>②◆「らてんぼ」来店者数</p> <p>◆「らてんぼ」を活動拠点とした企画事業の開催</p>	<p>100%</p> <p>80%</p> <p>8,000人</p> <p>10件 100人</p>	<p>90.2%</p> <p>未集計</p> <p>3,345人</p> <p>9件 159人</p>	<p>① 実施事業の効果等も踏まえ各事業の展開を図っていくとともに、次年度以降のプラン更新に取り組めます。</p> <p>② 中心市街地の活性化に向けて、街なかの学生連携活動拠点施設「らてんぼ」において学生団体Withなど学生を中心に学生・商店街・市民等の交流事業に取り組んでいきます。</p>	<p>37事業を実施中</p>
<p>■ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスの推進により、仕事と家庭が両立できる働きやすい環境づくりの促進に努めます。</p>	<p>仕事と子育てが両立できる職場づくりを推進する企業を支援する「育児休業代替要員確保支援事業補助金」制度の利用促進に努めました。</p>	<p>◆育児休業代替要員確保支援事業採択件数</p> <p>◆広報紙等による啓発活動</p> <p>◆ワーク・ライフ・バランスの計画の新規策定事業所数</p>	<p>10社</p> <p>3回</p> <p>10社</p>	<p>5社</p> <p>3回</p> <p>未集計</p>	<p>引き続き、「育児休業代替要員確保支援事業補助金」制度の利用促進に努めるなど、企業におけるワーク・ライフ・バランスを推進します。</p> <p>広報紙等による啓発活動も継続して実施します。</p>	<p>年度末に新規策定企業調査を実施</p>

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在 達成状況		
■ 就業率向上対策の推進 「団塊の世代人材バンク」を活用して、団塊の世代への就業機会の提供と市内企業の振興に努めます。また、若者就職カウンセリング事業を実施し、若者の就業への意識向上に努めます。さらに、求職中の若者や団塊の世代に対する就業チャレンジ支援として、講習会等を開催する就職サポート事業を実施し、就業率向上を目指します。	鯖江商工会議所の「人材バンクシステム」を見直し、「新入材バンクシステム(人材バンクマッチングシステム)」として、有能で働く意欲のある人材の登録を推進し、企業に対する登録者の人材PRを図りました。また、求人企業への人材紹介として、企業側からも人材の登録内容を閲覧できるようにし、求職者側・企業側の双方から利用可能にすることで、団塊の世代への就業機会の提供と市内企業の振興に努めました。 平成24年度から提案型市民役事業として、「就職支援事業」を実施しています。就職支援者スキルアップ事業として、就職支援セミナーを2回(8月7日、9月17日)開催しました。 相談機関であるふくい若者サポートステーションと協力して、出前相談会を8月31日と9月28日に開催しました。	◆ 団塊の世代人材バンクの活用			◆ 鯖江商工会議所とともに「新入材バンクシステム(人材バンクマッチングシステム)」のPRに努め、利用強化を図ります。 ◆ 福井県やふくい若者サポートステーションなどの相談機関と協力して出前相談会を開催します。平成24年度から提案型市民役事業として実施している「就職支援事業」において、今後はエントリーシート添削等のより実践的な項目に重点を置いた事業展開を行います。 ◆ 引き続き、市HP・広報誌でPRを継続します。	
		◆ 登録者数	100人	69人		
		◆ 登録企業数	50社	38社		
		◆ 就職応援セミナーの実施				
		◆ 開催数および参加者数	8回 120人	2回 42人		
		◆ 広報誌等でのPR	10回	4回		
■ 公共交通機関の利用促進 ①「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」を合言葉に、利用者アンケート調査を実施し、更なる利便性向上を図るとともに、福井鉄道や鯖江公共交通振興会と連携し、より一層の利用促進に努めます。 ②福武線の利用促進を目指し、福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議と沿線市と沿線住民で構成する福井鉄道福武線サポート団体等協議会が連携・協働して利用促進の運動に努めます。	利用者アンケート調査を6回実施しました。アンケート調査の結果をもとに、新年度に向けて利便性向上を図っていきます。 また、つつじまつりや環境フェアにおいて、福井鉄道やつつじバスの利用促進を啓発しました。	① ◆ 年間利用者数	20万人	8万人	① 10月上旬には、つつじバスのバスロケシステムを稼働します。また、運転免許証の自主返納者に対する無料乗車期間を10年から永年にする方向で検討していきます。 ② 福武線の利用促進を目指し、福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議や福井鉄道福武線サポート団体等協議会、鯖江公共交通振興会が連携・協働して「カーフリーデイふくい2012」や「ふくぶせんフェスタin北府駅」「さばえまちなかハイキング」などの利用促進の運動に努めます。	H25.3月末集計
		◆ 利用者に対するアンケート調査	2回 100人	6回 275人		
		② ◆ 鯖江市内駅の利用者数	45万人	未集計		
		◆ 野外活動等支援事業の利用者数	8,000人	3,161人		

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在達成状況		
■ 農産物の生産振興の促進 基幹作物の米を始めとする消費者が求める安全・安心な農産物を安定的に供給できる産地づくりや本市の園芸農業の実情にあった少量多品目野菜の生産を目指します。	4月12日以降計4回、市、県、JAの担当者で構成する鯖江市農業指導連絡会を開催し、平成24年度の農業関連事業計画等の円滑な推進について協議しました。 4月27日に市長、JA組合長等が本市の農産物の生産振興等について意見交換を行いました。 8月9日に特別栽培米に取り組む農家を対象に、平成25年産に向けた「さばえ菜花米」の栽培説明会を開催しました。 さばえ菜花米は、8月9日の栽培説明会后13名の農家から申し出があり、計画面積は14ha強となりました。 9月号の広報さばえ、JAかけはしに水田へのさばえ菜花播種について掲載しました。 JAたんなんが行う吉川カントリーエレベーターの食味値に応じた区分集荷等に向けた施設整備の助成を行います。	◆ さばえ菜花米翌年度作付け面積	5ha	14ha	◆ 今後は県、JAと連携しながら栽培圃場の土づくり、菜花の播種から平成25年産さばえ菜花米の栽培等に向けた指導を行います。 ◆ 10月集計予定 ◆ 鯖江市農業指導連絡会を引き続き開催し、農産物の生産振興等を協議します。 ◆ 地区農家組合長会等に出向き、不耕作地の有効利活として、引き続き菜花作付けの協力を依頼します。	(参考)平成24年産出荷量 ブロッコリー 未集計 マルセイユメロン 11,035個 ミディトマト 未集計
		◆ カントリーエレベーターの食味値の平均値	80点	未集計		
		◆ ブロッコリー・マルセイユメロン・ミディトマトの出荷量 対23年度アップ率	2%	未集計		
		◆ 菜花を播種し不耕作水田の景観等による利活用を図った面積	10ha	未集計		
■ エコ農業と食育・地産地消の推進 消費者ニーズにあった安全安心な地元産の農産物の消費拡大を図り、生産者と消費者の交流を通じ、「食」を基点とした農業・農村への理解を図ります。	環境に優しく、安全安心な農産物の生産を支援するさばえエコ農業支援対策事業を推進するため、5月30日・31日に説明会を開催しました。 6月1日に第1回鯖江市学校給食畑連絡協議会を開催し、本年度の給食畑の取組について協議しました。 6月19日に地場産学校給食への地場産野菜提供100%給食を実施しました。 7月1日に市の食育推進計画の元気さばえ食育推進プランによる、第1回食でつながるみんなのさばえを開催しました。	◆ エコファーマーの認定数	1,000人	1,030人	◆ 鯖江市農業指導連絡会を引き続き開催し、エコ農業と食育・地産地消の推進について協議します。 地区農家組合長会等に出向き、さばえエコ農業支援対策事業への取り組みを促します。 ◆ 今後開催予定の食育フェア等について、市民の方が来場しやすい内容となるよう関係者による協議を行います。 ・10月21日実施予定 参加者1,400人見込み ・1月15日実施予定 参加者300人見込み ◆ 11月22日実施予定 対象者7,400人見込み 児童、生徒の食育を推進するため、11月に県の味わい学ぶ「ふくいの味の週間」推進事業による味覚の授業、味覚の給食を実施します。	
		◆ 特別栽培米の作付面積	80ha	78.7ha		
		◆ 食育イベントの開催 来場者数				
		・さばえ食と健康福祉フェア	1,400人	未実施		
		・食でつながるみんなの鯖江	500人	400人		
		・ふるさとの日ふるさと料理を楽しむ会	250人	未実施		
◆ 学校給食への地場産野菜提供100%イベントの開催[6月・11月]	小中学校15校 幼稚園7園 14,000人	小中学校15校 幼稚園7園 7,446人(6月)				

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在 達成状況		
■ 地域農業の担い手育成と農村の活性化 農業者戸別所得補償と県・市の関連事業を通じた支援を活用し、農業者の経営安定を目指すとともに、今後取り組んでいく地域農業の在り方を示す「人・農地プラン」を基に、認定農業者、農業生産組織等の育成と農地利用集積、新規就農と退職者等の帰農による多様な農業者の確保を促進し、地域農業の担い手づくりを推進します。	4月12日以降、計4回、市、県、JAの担当者で構成する鯖江市農業指導連絡会を開催し、平成24年度の農業者戸別所得補償制度の実施や担い手育成等について協議しました。 人・農地プラン策定推進のための集落説明会を行いました。	◆ 米の戸別補償交付金対象者への加入促進	100%	100%	◆ 地区農家組合長会等に出向き、農業者戸別所得補償制度等について説明を行います。 ◆ 新たに認定する認定農業者、新たに法人化する農業生産法人、新規就農者の発掘および担い手への農地集積に向け地元説明会等を開催しPRを行います。 ◆ 鯖江市農業指導連絡会を引き続き開催し地域農業の担い手育成と農村の活性化について協議します。 ◆ 人・農地プラン策定推進のために引き続き集落説明会を行います。また、集落内の協議が整った集落から、随時策定に向けた支援を行います。	国の農業者戸別所得補償制度 加入932戸/申請932戸
		◆ 新たに認定する認定農業者	3人	2人		
		◆ 新たに法人化する農業生産法人	1組織	0組織		
		◆ 新規就農者	2人	0人		
		◆ 農用地利用権設定面積	770ha	744ha		
		◆ 担い手への農地利用集積の増加面積	40ha	未集計		
		◆ 人・農地プラン策定推進のための集落出前講座	20回 250人	27回 505人		
■ 鳥獣害被害対策の強化 「人と生きもののふるさとづくりマスタープラン」に基づき、市民主役で取り組む地域ぐるみの鳥獣被害対策を推進します。	「人と生きもののふるさとづくりマスタープラン」による市民主役で取り組む地域ぐるみの鳥獣被害対策を推進するために、三里山周辺において、6月16日は下新庄町、9月8日は川島町を会場としたウォーキング等のイベントを実施し、周知・啓発を行いました。 米岡町、吉谷町の山ぎわへの電気柵整備に向けた町内説明会を開催しました。 市民からの鳥獣害の相談を受け、適切な防除指導および捕獲を行いました。	◆ 町内役員・農家組合役員等を対象にした地区等学習会の開催	15回 150人	6回 120人	◆ 農繁期後に後期の地区等学習会の開催予定です。 ◆ 情報交換会を開催予定です。 ◆ 市民シンポジウムを開催予定です。 ◆ 県狩猟免許試験(2月実施予定)に向けて、試験費用の一部助成を行う鳥獣害対策リーダー育成支援事業の周知啓発を行います。 ◆ 山ぎわの町内に電気柵設置要望調査を実施します。 ◆ 地域住民の鳥獣被害への関心を高め、また市で被害把握を行うため、鳥獣被害調査を行います。市HP、広報さばえ、JAかけはし、地区農家組合長会への参加等により鳥獣被害の情報提供等を行います。 山ぎわの町内に電気柵設置要望調査を実施します。	
		◆ 情報交換会の開催	1回 100人	未実施		
		◆ アライグマ捕獲従事者講習会の開催	1回 50人	1回 45人		
		◆ 市民シンポジウムの開催	1回 100人	未実施		
		◆ 鳥獣害対策リーダー育成支援の対象者(県狩猟免許取得費用助成対象者)	30人	0人		
		◆ 山ぎわ獣害対策推進事業による協定締結集落数	10集落	地元協議中		
		◆ 山ぎわ竹林の伐採指導回数	10回	未実施		

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在 達成状況		
■ 快適な農村環境づくりと災害に強い農地基盤の整備 農地・水保全管理支払交付金の共同活動による農村環境の適正な保全および向上活動基礎部分による農業用施設の長寿命化により、地域の自主性、創意工夫を活かした農村環境等の向上を図るとともに、地域活動定着のための活動団体の強化とスムーズな運営を支援し、地域協議会との連絡調整と活動団体の記録確認などを積極的に行うことで活動組織の質の向上を図ります。 また、災害に強い活力のある農村づくりを目指すために鯖江西部地区の農村災害対策整備計画を策定します。	「共同活動支援交付金」への加入促進のための説明会を5月11日に実施し、加入団体への運営支援のための直接指導を5月に実施しました。 「水門等維持管理研修会」を5月10日に開催し、農業用施設管理者に対して適性管理への指導・啓蒙を行い、「田んぼダム研修会」を7月26日に実施し、施設管理等への啓蒙普及を行いました。 災害に強い活力ある農村づくりを目指す「農村災害対策整備計画」策定のための資料収集および委託の発注を8月13日に行いました。	◆ 共同活動支援交付金による活動の取組率(対農振農用地面積)	90%	88.9% (1432.82/1611)	◆ 共同および向上活動支援交付金についてPR活動を行います。 ◆ 「農地・水保全管理支払交付金」への取組率向上のための研修会を10月に実施します。また、活動組織の体質強化のための直接指導を10月、12月、3月に実施します。 「農村災害対策整備計画」について、市民の意見を反映するため2月に意見聴取会を実施します。農業農村整備管理計画(総事業費約45億円)に基づいた事業の推進を図ります。	
		◆ 向上活動支援交付金による活動の取組率(対農振農用地面積)	80%	82.1% (1322.81/1611)		
		◆ 活動団体の強化・支援 研修会	1回 100人	1回 101人		
		◆ 直接指導	2回 200人	1回 90人		
		◆ 施設管理研修会の開催	1回 100人	2回 105人		
■ 里山環境保全の推進 林業振興市民の憩いの場としての里山は、二酸化炭素の吸収、澄んだ空気の醸成や水源の涵養機能など様々な機能を有しており、里山の整備・保全を図ることは、地球温暖化対策面、生活環境や生態系保全の観点から、非常に重要な課題となっているため、市民・市民団体・事業者・行政が連携し、人と生きものが共生できる森づくりを進めることで、幅広い環境の保全に努めます。	関係集落と連携した草刈を1回実施し、林道パトロールを毎月1回実施しました。 森林組合、丹南農林および鯖江市と協議し、4月に「森林整備計画」を、6月に「特定間伐推進計画」を策定しました。 森林組合と連携し、樹下植栽により広葉樹を540本程度植栽しました。 松林再生に向けた研修会を6月、視察を8月、現場協議を9月に実施しました。	◆ 林道の保全(パトロール・草刈等)	36km	36km	◆ 関係集落と連携した草刈を9月に実施し、毎月行っている林道パトロールを11月まで継続します。 ◆ 作業道整備のための地元等との協議を森林組合と連携し実施します。 ◆ 森林組合等と連携し、樹下植栽の啓蒙普及を行います。 ◆ 「松林再生計画書」策定に向けて関係者協議を11月、2月に行い、3月末までに策定予定です。	
		◆ 適切な森林管理(森林施業作業道の整備)	5,000m	地元協議中		
		◆ 森づくりの推進(広葉樹等の植栽)	2,000本	3,540本		
		◆ 松林再生に向けた集落との協議回数	2回	3回		

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在 達成状況		
■ 特産農林産物等のブランド化 特産化を進める「吉川ナス」「さばえ菜花」「さばえ菜花米」「さばえ夢てまり(マルセイユメロン)」等の特色のある農産物等の栽培技術の確立による質と量の確保を推進し、本市のブランド農産物として確立し、県内外での販路開拓・販路拡大を行います。	吉川ナスについては、新たにキリンシティ(株)と取引を開始しました。(売上3,067個) 大都市圏でのPRを実施しました。①4月28日:ファームエイド銀座 ②8月25日・26日:麻布十番の納涼まつり ③7月9日～20日:明治大学ふるさと鯖江フェア さばえ菜花については、農家3軒で栽培組織を立ち上げ、栽培を開始しました。 株主制度については、吉川ナスと越のルビーでサポーターを公募しました。 特産野菜の食味会は、吉川ナスについて7月14日にグルメツアー(河和田)で実施しました。 親子農業体験は、菜花米、吉川ナス、さばえ菜花について実施しました。 特産品市民PR組織は、学生団体With Plus、うるしの里食文化戦略協議会にお願いをしました。	◆ 特産農産物の新たな流通ルートの開拓 ◆ 東京圏、関西圏、中京圏での特産品のPR ◆ さばえ菜花の冬野菜としての生産組織の育成 ◆ 特産農産物株主制度による株主の数 ◆ さばえ菜花と鯖江産野菜のロゴマーク作成 ◆ さばえ菜花、吉川ナスの地区単位の食味会の開催 ◆ 親子農業体験の実施 ◆ 特産農産物および加工品PR市民組織の育成	2ルート 3回 1組織 50人 2品目 2回 3回 90人 3団体	1ルート 3回(東京) 1組織 3人 未実施 1回 3回 100人 2団体	◆ イオンと取引を行います。(フードアルチザン活動(吉川ナス)) さばえ菜花の販売ルートを開拓します(武生青果(株)) ◆ 明治大学ふるさと鯖江フェアを10月15日～26日に行います。 ◆ まずは3軒の農家による栽培研究会を設置します。 ◆ 後期は、さばえ菜花米と越のルビーで募集を実施します。 ◆ さばえ菜花についてロゴマークを作成予定です。 ◆ さばえ菜花食味会を、12月12日に豊公民館で実施します。 ◆ 12月2日に親子さばえ菜花の収穫体験を実施します	
■ 農業の6次産業化および農商工連携による商品開発および新サービスの創出 農業経営の改善や中小企業者の経営向上を目指し、農家自らの6次産業化や農商工連携による鯖江ならではの商品開発や新たなサービスの提供などにチャレンジする農家や事業者の育成を推進します。	鯖江産農産物を使用した加工品の開発、新サービスの提供は、今年に入り①マイセン ②こころ ③クッキング福井 ④Aコープ ⑤茂右衛門農場で行っており、事業の支援をしています。 さばえ菜花まつりは、3大花物語の中間の4月14日・15日に開催し、菜花などの食材や加工品を味わってもらいました。	◆ 農林業の6次産業化、農商工連携による新商品・新サービスの開発支援 ◆ さばえ菜花米フェア、イチゴフェアなど特産野菜等を普及する企画実施 ◆ プロジェクトチームによる地場農林産物等を活用した特産品の開発 ◆ 若者たちと連携した地場農産物スイーツコンテストの開催 ◆ 大学・企業と連携した地域特産加工品製作 ◆ さばえ菜花まつりの開催	5件 2回 1品 1回 50人 1品 1回 20,000人	5件 1回 未実施 準備中 未実施 1回 17,000人	◆ 菜花米フェア、イチゴフェアを予定しています。 ◆ 伝統の福井野菜推進協議会と連携し、吉川ナスの加工品を開発します。 ◆ 11月18日に、ものづくり博覧会において開催します ◆ 唐辛子の栽培+柚子栽培＝山雲丹を製作します。	
■ グリーンツーリズムの推進 農地や山林、自然、農産物からのものづくりなどの地域資源や人的資源を強みとした都市と農村の交流を促進し、農業、農村の活性化を図ります。	新たに都市農村交流員を設置しました。 市民団体を集めて、都市農村交流情報交換会を行い、地域課題などの情報交換を行いました。 銀座ミツバチプロジェクトなど、大都市の産業界との交流を深めました。	◆ 県内外の大学生等による得意な分野を活かした農業活性化の企画提案 ◆ 県内外の大学生による農業体験 ◆ 都市と農村を結びつけるツアーの開催 ◆ 市内を訪問した都会の団体への地場農産物の提供 ◆ 都会でのプロジェクトPR ◆ 大学生グループのショートステイと農産物を用いたイベントの実践 ◆ 農業体験受け入れのための地域団体の育成 ◆ グリーンツーリズム全国大会分科会の受け入れ	2提案 3回 30人 1回 20人 2回 30人 2回 1回 30人 1組織 1回 20人	2提案 6回 78人 未実施 5回 55人 2回 2回 1組織 未実施	◆ 都市農村交流員を中心に随時受け入れを行います。 ◆ 1月13日・14日に実施予定です。(銀座の経済人を招待) ◆ 1月13日に銀座の経済人に提供します。 ◆ 11月に、銀座でさばえ菜花米のPRを行います。 ◆ 11月18日にものづくり博覧会でスイーツコンテストを開催します。 ◆ 11月8日・9日・10日に、分科会とオプションツアーを実施します。	

重点的に取り組む項目	重点項目の取組状況	具体的な目標			今後の取組方針	備考・その他
		数値目標	目標値	9月末現在達成状況		
■ 自然環境の保全と再生 桃源清水などの貴重な湧水の水質の保全に努めるとともに、コウホネの生息環境保全や過去に市内ではなくなったトミヨの生息環境の再生検討などを進め、希少な動植物の保全と地域活動の活性化に努めます。	8月24日に、定次町の「許佐羅江清水」が「ふくいのおいしい水」に認定されました。 その「許佐羅江清水」に希少動物「トミヨ」を呼戻す事業を検討するため、専門家、行政機関、町内会からなるワーキングを開催しました。	◆ 市内河川の清掃美化活動へのボランティア参加者数 ◆ 「ふくいのおいしい水」の新たな認定清水 ◆ 専門家、関係機関の参加による希少動植物の保全検討会議開催	8,000人 1箇所 3回	7,597人 1箇所 1回	◆ 平成25年3月に市および関係行政機関職員による日野川クリーンアップ作戦の実施を予定しています。 ◆ 「トミヨ」を呼戻す事業検討会議を開催し、平成25年度「トミヨ」放流に向けての環境整備や管理体制の構築等を検討します。	
■ 地球温暖化防止活動の推進 地球温暖化対策計画に基づき、年々増加傾向にある民生部門(家庭や事務所など)における温室効果ガスの排出を抑制するため、家庭や事業所における省エネ活動を促進するとともに、市役所も省エネ推進計画に基づき、率先して使用するエネルギーの削減に努めます。	省エネ推進計画に基づき、市役所におけるエネルギー削減に取り組ましました。 また、夏期の省エネ活動として、「クールライフプロジェクトさばえ」を実施し、市役所における7月から9月の3ヶ月間の電力使用量の平成22年度比10%以上削減に取り組んでいます。 また、家庭で省エネに取り組んでいただく「さばECOストップ地球温暖化チャレンジ大作戦」を実施しました。	◆ ストップ温暖化さばえ推進協議会の開催 ◆ 省エネチャレンジファミリー登録世帯数 ◆ グリーンカーテンによる省エネ活動取り組み事業所数 ◆ 住宅用太陽光発電設備設置補助件数 ◆ 市役所のエネルギー使用量の削減(5年間で5%削減)	3回 1,500世帯 15事業所 100件 年間1%	未実施 343世帯 40事業所 94件 5.1%	◆ 今後、開催を予定しています。 ◆ 冬期の省エネ活動として、「ぬくもりライフプロジェクトさばえ」を実施し、チャレンジファミリーの登録啓発を行います。 ◆ 省エネ推進計画に基づき、市役所におけるエネルギー削減に引き続き取り組まします。	うち、コンテスト応募 4事業所 5.1%は、H23の実績(実績は、翌年7月に確定)
■ 1人1日当たりのごみ排出量の低減 循環型社会の構築を目指して、市民が主体となるごみの減量化や資源化を効率的に進めるため、「生ごみの堆肥化」や「古紙類等の集団回収に対する奨励金」などを実施し、3R(排出抑制・再利用・再生利用)の推進に努めます。	ごみ減量および資源化率向上のため、出前講座および広報活動を実施しました。 広報さばえ7月号で、ごみ減量化・資源化を特集し、「ダンボールコンポストによる生ごみ堆肥化」「古紙類等の集団回収に対する奨励金」を啓発しました。	◆ 1人1日当たりのごみ排出量 ◆ 分別啓発による資源化率 ◆ 地区別出前講座等による啓発 ◆ 集団回収による古紙類空き缶等の奨励金交付団体数	970g以下 22% 20回 800人 4団体	1,090g 17% 37回 530人 3団体	ごみ減量化・資源化をより推進するため、10月上旬から「まちづくりモニター制度」を活用した市職員によるごみ分別排出指導を現場ステーションで実施します。 今後もごみ減量・資源化率向上に関する啓発を、事業所も含め継続していきます。	11月から事業系一般廃棄物の指定袋が黄色から青色に変更されることについて啓発を実施 ごみ排出量には、ダンボール類・新聞紙を含む。
■ 環境学習の充実による環境市民育成の推進 環境教育支援センターを拠点として、地球温暖化防止やごみの減量・資源化等の環境学習講座、子どもエコクラブ交流会、本市の豊かな自然を再認識する体験活動、どんぐりからの森づくり事業等を継続的に開催し、環境に配慮し、自発的に行動する「環境市民」の育成に推進します。	環境教育支援センターを拠点として、地球温暖化防止やごみの減量・資源化等の環境学習講座を実施しました。 6月11日に、市民約200名が参加し「森づくりに関する国際講演会」を、翌12日は市内小学生など約850名が参加して「実のなる公園植樹祭」を開催しました。また、8月11日に1700名が参加し、環境フェアが開催されました。	◆ 環境教育支援センター来館者数 ◆ 環境学習講座延べ参加者数 ◆ こどもエコ探検隊の開催 ◆ 環境フェア来場者数	13,000人 8,000人 1回 40人 1,500人	8,374人 5,756人 未実施 1,700人	10月27日(日)に福井新聞社との共催で、「こどもエコ探検隊」事業として「水」をテーマに、上下水道施設や「許佐羅江清水」を見学し、さらに小水力発電についての体験などを実施する予定です。 環境教育支援センターを拠点として、各種環境教育・啓発活動を実施していく予定です。	